

酒田市で「山形県青パトフォーラム」開催！

山形県警察は、山形県防犯協会連合会と共同で、平成30年2月14日に酒田市公益研修センター（東北公益文科大学内）において、「平成29年度山形県青パトフォーラム」（以下「フォーラム」）を開催しました。フォーラムは、青色防犯パトロールの活動の活性化と士気高揚を図ることを目的に、昨年から開催しており、今回で2回目となります。

フォーラムには、県内から、青パト従事者や警察署の担当職員のほか、防犯協会、子ども見守り隊、自治体の方々134名が参加しました。



【小野会長の事例発表】



【浦瀧会長の事例発表】

第1部では、まず、酒田市防犯協会連合会港南防犯協会と神町パトロール協議会（東根市）が事例報告を行いました。港南防犯協会の小野会長は、「近隣の防犯協会との合同研修や出発式参加を通じ、隊員のモチベーションの向上を図っていることや交通関係団体と連携した活動を行うことで効率的な活動を展開している」事例を発表しました。神町パトロール協議会の浦瀧会長は、「発足から数年後、会員数の伸び悩みや活動の停滞といった課題に直面したが、活動の核となる各地区のリーダーの選出方法を変更する、様々な広報媒体を活用して地域に活動を周知するなどの改革を行い、会員数増加と活動の活性化を図った」事例を発表しました。

この後、青パト活動に知見が深い摂南大学法学部の中沼丈晃准教授が、「どこまでできるか？そこまでやるか！青パト活動」と題して基調講演を行いました。中沼准教授は、防犯ボランティアをやるなら「楽しく、やりがいを感じるようにやること」をすすめ、「子どもたちとのふれ合いが青パトの楽しさにつながること」や「青パト立寄所の設置」「青パトの歌をつくる」「青パトの体験乗車」といった事例をあげ、活動を続けるには、各団体で工夫することが大切で、工夫することからやりがいが生まれると提案しました。最後に、「青パトは地域の看板であり、交通マナーを守らないなど、一部の人の変な行動をとると、ほかの青パト隊にも影響する。一人一人が青パトの看板を背負っていると思いながら活動していくことが大事です」と説いて講演を締めくくりました。



【中沼准教授の講演】



【ワークショップ】
防犯あるある「かるた」

第2部では、基調講演に続き、中沼准教授が講師となりワークショップを行いました。まず、グループごとに分かれ、防犯あるある「かるた」を実施。かるたを取った後、それぞれ、共感できる札を選び、お互いに選んだ理由を発表。その後、自身のパトロールあるある「かるた」の札を作成して、互いに披露しました。

続いて、参加者は、防犯あるある「川柳」を作り、完成した作品を発表し合いました。普段の防犯活動で起きる何気ない出来事をユーモラスに表現した作品が披露され、和気あいあいの中、フォーラムは終了しました。参加者からは、「他の団体の活動状況を知ることができて良かった」などの感想が寄せられ、大変好評でした。